

全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。

2018年7月 海外伝道ニュース 発行：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団海外伝道部



Japan Assemblies of God  
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
OFFICIAL WEBSITE

# 海外伝道

〒170-0003 東京都豊島区駒込 3-15-20 郵便振替口座 00120-9-15702 , <http://kaigai.ag-j.or.jp/>



海外伝道部員

熊本聖書教会牧師

長澤 牧人

宣教師は、現地の文化と

歓迎を受け入れます

「どの町へはいつでも、人々があなたがたを迎えてくれるなら、前に出されるものを食べなさい（ルカによる福音書十章八節）」

聖書学者デビッド・マトソンによれば、この御言葉の背景には、異邦人伝道があるそうです。当時のユダヤ人が、異邦人と食事を共にするのはタブーでした。異邦人が出す食事は、汚れていると信じたからです。当時の文献を調べると、ユダヤ教において「棄教者」とみなされた第一の行為は、なんと異邦人との食事なのです。

しかし、それでは世界宣教ができません。ユダヤ人の慣習に逆らっても、異邦人と共に食事をしないと、非ユダヤ人に伝道すること

とは不可能でした。

「どの町に入っても、前に出されるものを食べなさい！」。パウロに同行して、異邦人伝道を知り尽くしていたルカは、このイエスさまの言葉をあえて記しました。教会が宣教のため、律法と文化の壁を超えるようにと。

現代の宣教師も同じです。迎え入れてくれた現地のの方々が出してくれた料理を食べないと伝道できません。日本人の目には、珍奇な料理もあります。日本人の舌には合わない料理もあります。でも、現地の人たちは、そういう料理を命の糧にして生きているのです。ある意味、彼らの料理を否定することは、現地の人たちの生き方を否定していることにもなるのです。

宣教師は、出された料理を食べて、現地の文化と人々の歓待の心を受け入れます。どの町、どの村に入っても、目の前に出された物は、何でも食べるのが、海外宣教の第一歩です。

今月号では、丸山宣教師と関本宣教師が体験した、現地の食事にまつわる短いエピソードを紹介します。



## 台湾料理

### 生豚肉の塩漬け 丸山陽子宣教師

山地を巡回した時、タイヤル族のどの村でも出されたのが、生豚肉の塩漬けです。発酵臭と酸味が強く、腐敗しているとは思えず、ど



うしても食べることができませんでした。カルチャーシヨックとマタニティブルで悩んでいたのが、神様に祈りました。ある日、すっぱいものが食べたくなり、自宅の冷蔵庫を開けると、この漬物がありました。祈りながら食べると、とてもおいしく、妊娠のつわりもおかげで止まりました。その時から、生豚肉の塩漬けは、私の好物に代わり、カルチャーシヨックも乗り越えることができました。



## 驚きの

### フィリピン料理 関本英樹宣教師

#### おもわず躊躇した料理

ある祈祷会に参加した後、初めて見たチャンポラード。甘そうなお味のチョコレートに、お米の入ったお粥。最初は、とても抵抗がありました。カカオをそのまま入れている、もち米なので、甘くないおしるじです。フードコートでも食べることができます。



#### 一番美味しいと感じた料理

キニラウは、生のマグロをぶつ切りにし、キュウリ、玉ねぎと共にニンニク、シヨウガで下味をつけ、最後にお酢であえたフィリピン風マリネです。刺身の食べ方として、とても新鮮でした。魚が入手しやすい私の住む町では、どこでも気軽に食べられます。



# 台湾体験ツアー



2018年7月31日～8月6日

どきどきワクワクのプログラムがいっぱいです。明るく陽気な原住民は、いっしょにいるだけで癒し系です。原住民クリスマスチャンの音楽や踊りは、まるでプロのよう。そして台湾料理は、世界一と評判です。屋台体験も、体験ツアー特典の一つ！有名な故宮博物館も見学します。山地での伝道と平地での伝道では、多くの魂の収穫に、みなで参加することができます。ツアー経験者の多くの方が献身しています。(丸山陽子)。



# フィリピン

## 体験ツアー

2018年8月16日～8月22日



ミンダナオ島は、フィリピンの「フルーツバスケット」とよばれるほど、南国フルーツが豊富です。とくに、8月に最盛期をむかえるドリアンをはじめ、おおくの南国フルーツが楽しめます。海やフィリピン最高峰のアポ山など、豊かな自然にかこまれ、フィリピンでも、もっともおおくの異なる部族がすむ地域です。  
めずらしい部族の宗教や習慣などの異文化にふれることができます(関本英樹)。



# 宣教師 巡回日程



## 海外 宣教の 担い手

北九州シオン教会牧師

力丸嗣夫

### ■丸山陽子宣教師

～前期巡回～

- ・北陸教区 5月15日～24日
- ・東北教区 5月25日～6月4日
- ・関東南西教区①  
6月5日～7月3日（6月15-17日および26-28日は除く）

～後期巡回～

- ・九州教区 8月26日～9月15日
- ・沖縄教区 9月17日～23日
- ・北海道教区 9月24日～10月5日
- ・関東南西教区② 10月6日～10日

また、私が口を開くとき、語るべきことが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように私のためにも祈ってください。（エペソ6：19）

私たちは、宣教師のために祈り献げて参りました。そして、宣教師の報告にもとづいて、どんな祝福された結果があったかを分かち合っていたいただき、喜びにあふれました。しかし、これ等の結果が得られるために、宣教師が現地でどんな苦闘して来たかは、あまり語られませんし、充分知る事もできません。

### ■矢吹大輔・頼子宣教師

- ・関東北東教区①  
6月15日～7月22日（6月26-28日は除く）
- ・北陸教区 7月29日～8月7日
- ・東北教区 8月8日～19日
- ・中国教区 8月21日～31日
- ・北海道教区 9月1日～12日
- ・東海教区 9月13日～27日

それが、大きな実であれ、小さな実であれ、言語・文化・歴史・気候等々、同じアジアと言っても全く違った世界で生き、伝道し、交わり伝道することは、国内の牧師伝道者の働きとは、比較にならないほどの困難と葛藤を経ることでしょう。この隠れた事実の中で、神が働かれることを覚えて、海外宣教祷告には、特別な思いと洞察を向けて取り組んでいけたら、より大きな一体感をもって、海外宣教の働きに参加することができるのです。